

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	グローバルキッズ戸塚吉田町保育園
経営主体(法人等)	株式会社グローバルキッズ
対象サービス	児童分野 認可保育所
事業所住所等	〒244-0817 神奈川県横浜市戸塚区吉田町104-2 ザ・パークハウス戸塚 1F
設立年月日	平成 26年 4月 1日
評価実施期間	平成 29年 4月 ～ 平成 29年 1月
公表年月	平成 29年 1月
評価機関名	株式会社フィールズ
評価項目	横浜市版（保育分野（保育所））
総合評価（事業所の特色や努力、工夫していること、事業者が課題と考えていること等）	
<p>〔施設の概要〕</p> <p>グローバルキッズ戸塚吉田町保育園は戸塚駅から徒歩5分ほどの柏尾川を超えた住宅街にあります。6階建マンションの1階部分が保育園です。60坪ほどの園庭が設けられ、子どもたちが陽光のもとで駆け回っています。開設して4年目で定員は105名（乳児45名、幼児60名）です。看護師が配置され生後57日からの乳児を受け入れています。</p> <p>法人の株式会社グローバルキッズは平成18年に設立され、首都圏を中心に100カ所ほどの保育園等を運営しています。子ども一人一人の思いを受け止め、丁寧で家庭的な保育の実践を大切にしています。</p> <p>法人の保育理念「豊かに生きる力を育てる」を踏まえ、園の保育理念を「生きる力を仲間の中で」としています。「子どもが真ん中の保育園」を掲げ、子ども一人一人の欲求を十分満たして生きる土台を作り、子どもが自分たちで考えながら日々を創っていく保育を大切に考えています。</p> <p>≪優れている点≫</p> <p>1. <u>子どもたちが中心になる活動や環境を創って支援しています</u></p> <p>園では「子どもが真ん中」の保育園を目指し、保育士は日々の過ごし方を子どもたちと相談しながら創り上げていけるように努めています。子ども一人一人が主体的にやりたいことをしながら、園生活全般を自分たちで創っていくために、幼児クラスでは「子どもミーティング」を随時行っています。子どもは年度後半になると自分の思いを相手に伝えたり、相手の話をじっくり聞けるようになってきます。4・5歳児縦割りクラスの部屋の床にビニールテープで大きな円を描いて、子どもたちが椅子を並べて話がしやすいようにしています。</p> <p>園は独自に「保育に対する思い」を明示しています。目指す子ども像として「自分で考えて行動出来る子ども」を挙げ、子どもたちが発想力や集中力を発揮して、主体的に遊びを創り出すことができるような環境づくりに努めています。1・2歳児の保育室では手作りの背の低いスノコ状の仕切りを床に組み立てて、いくつものコーナーを作り、遊びに集中できるようにしています。幼児のクラスでは簡単な屋台風木の家や、机を利用して遊びのコーナー作りをしています。子どもたちはブロックやままごと・パズル・製作・お絵かきなど自分のやりたいことを選び、自分の居場所を見つけて遊びます。</p> <p>保育士は子どもたちのかかわりを見守りながら、遊びのコーナー作りにも工夫しています。園庭は子どもたちが自分で工夫して遊びを作り出せるようにと、固定遊具を置かず、砂場と土の小山が作られて</p>	

います。砂遊びをする子や小山に登って駆け下りる子、全速力で走り回っている子どもなど主体的に元気に遊んでいます。

2. 育児担当保育を行い、一人一人を大事にした保育を実践しています

保育者は子どもたちの欲求を十分に満たせる環境を整え、その子らしく大きくなるように手助けしていくのが仕事との視点に立ち、育児担当保育を取り入れて一人一人を大事にした保育を実践しています。0歳児から2歳児クラスは、食事と排泄についての育児担当を決めています。

より家庭に近い環境を整えて保育士との密な関係を築くことで、保育園が子どもたちにとって「第二の家庭」となり、安心して過ごす中でその子らしい主体性が育つと考えています。食事やおやつ時間は各グループのテーブルごとに担当の保育士が配膳しながらメニューの説明をして、食事中の子どもたちを見守りながら話しかけています。子どもたちはいつも同じ保育士がそばにいて世話をしてくれるため、静かな声のトーンで話し食事に集中しています。排泄時は担当の保育士に寄り添い、手をつないでトイレに行く姿が見られます。遊びの時間は保育士全員が、クラス全体の子どもとの関係づくりを意識して保育しています。育児担当の保育士は食事と排泄以外の場面でも、担当する子どもにとっての「安全基地」になるように心がけています。

《努力・工夫している点》

1. 園の保育について独自に冊子で紹介しています

保育内容について理解を得るために園独自のパンフレットとして冊子「グローバルキッズ戸塚吉田町保育園の保育」を作成し、職員はじめ保護者、来園者などに配付しています。

冊子には企業理念「子どもの未来のために」、会社の保育理念「豊かに生きる力を育てる」を踏まえて、園の保育理念「生きる力を仲間の中で」や目指す子ども像「自分で考えて行動できる子ども」「相手の気持ちがわかる子ども」を紹介しています。これらの理念を実現するために園で実践している保育内容について、「保育に対する思い」「保育内容について」「保育の特徴について」の項を設けてA4版6ページにわたって丁寧に説明しています。

《課題や改善することが期待される事項》

1. マニュアルの保管方法についての検討が期待されます

園作成マニュアルの保管方法について検討が期待されます。園では法人共通のマニュアルのほか様々な園独自のマニュアルを作成し全職員に配付し活用しています。

子ども同士のけんかへの対応、叱り方、職員の言葉遣いや服装、保護者に対する話し方などまとめた「保育最低基準」があります。「子どもへのNG用語、NG行動」「職員としての最低限のマナー」のほか、入園児の持ち物リストや苦情対応マニュアル、ボランティア受け入れマニュアル、看護師作成の保健衛生に関するもの等々あります。

これらのマニュアルはそれぞれが関係するファイルに保管されていますが、まとめてファイリングされたものは作られていません。園独自のマニュアルとして何があるのか、いつでも誰でもわかるようにし、活用しやすくする工夫が期待されます。

2. 地域へのサービス提供について、可能な範囲での拡大が期待されます

保育園の専門性を活かした地域へのサービス提供について、可能な範囲での拡大が期待されます。一時保育については毎月、10～15人の利用があり、クラスに入って園児と一緒に過ごしています。園は町

内会に加入し夏まつりや秋まつり、餅つきに子どもたちと参加し、行事の際にはテントや紅白幕などの物品を貸していただくなど交流を図っています。また、町内会の役員会に出席して保育園としてできることを伝えています。マンション理事会の理事を引き受け、近隣住民には行事の際の事前の挨拶や保育園前の道路の清掃をするなどで交流をしながら、保育園への要望を把握できるように努めています。

しかし、園庭開放や育児相談については開園して4年目であることや園の構造上のこともあり未実施になっています。育児相談としては見学時に受けた相談に対応している範囲で、地域に向けての情報発信は実施していません。保育園は社会資源として、地域へのサービス提供について、可能な範囲での実施を検討することが期待されます。

評価領域ごとの特記事項

<p>1.人権の尊重</p>	<p>企業理念や法人の保育理念を踏まえて、「生きる力を仲間の中で」を園の保育理念としています。園の基本方針は、子どもの人権を尊重したものとなっています。目指す子ども像として「自分で考えて行動できる子ども」「相手の気持ちがわかる子ども」を掲げています。子ども一人一人の思いを受け止め、その発達をとらえ成長を見守り育む、丁寧で家庭的な保育の実践を目指しています。</p> <p>保育内容を丁寧に紹介したパンフレットとして冊子「グローバルキッズ戸塚吉田町保育園の保育」を作成し、職員はじめ保護者、来園者等に配付するとともに、クラス編成、職員配置、室内の設定、一日の過ごし方、職員の対応など様々に工夫しています。</p> <p>保育課程は保育の基本方針を踏まえ、4・5歳児の縦割りクラスの保育実践など、保育目標を達成するものになっています。保育課程は子どもの発達過程など法人共通部分をもとに、主として園長が開設時に作成しました。園は「子どもが真ん中の保育園」を掲げ、保育士の言葉かけで子どもたちが行動する一斉保育をできるだけ避け、子どもが自分で考えて行動することや、コミュニケーション能力をはぐくむことを大切にしています。</p> <p>4・5歳児クラスは日々の生活や行事について「子どもミーティング」を行い、自分の思いを相手に伝えるとともに、話を聞いて受け入れるなど、相手の気持ちがわかる子どもをはぐくむ機会としています。日々の保育の中でも保育士は子どもたちと相談しながら保育を進めています。</p>
<p>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</p>	<p>天気の良い日は散歩に出かけ、公園で遊びます。近隣には公園がたくさんあり、年齢別に行先の目標を決めています。下駄箱上の壁面にはお散歩マップを掲示して、保護者にも公園を紹介しています。4・5歳児の最終目標は舞岡公園で、1日1万歩を目指しています。子どもたちは散歩の行き帰りで地域の様子を学び、自然豊かな公園を楽しんでいます。園庭には砂場と土山があり、自由遊びの時間には、砂遊びや土山登りをする子、全速力で走り回る子どもたちの生き生きとした姿が見られます。</p> <p>食育だよりと献立表を毎月保護者に配付し、毎日の献立は玄関に展示しています。離乳食については、毎月、保護者に未食チェックを依頼して、相談の上調整しています。保護者体験会で給食の試食を行っており、参加できなかった保護者には保護者の都合の良い日に試食の機会を作っています。食育だよりには季節の食材の話やレシピなどが掲載されていて、子どもたちに人気のあったメニューは玄関に配布用レシピを置いています。</p> <p>自主的な保護者組織はありませんが、保護者活動を支援する姿勢はできています。保護者有志の集まり、「おやじの会」がボランティアとして園庭の砂や土の入替えやスポーツフェスティバルに協力しています。保護者間のコミュニケーションや自</p>

	<p>主的な活動に園としての役割が期待されます。</p>
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<p>新入園児には必要に応じて、子どもの心理的な安心を得るためのタオルなどをロッカーに置き、不安な時に持たせるなどをして無理なく園生活に慣れるように配慮しています。乳児クラスでは 2 年前から育児担当保育を実施して、子どもが特定の大人との愛着関係を築き、園が第 2 の家庭となることを目指しています。クラスを担任の数に小グループ化して、食事や排泄については、主としてグループの担任が保育して家庭的な暮らしができるように工夫しています</p> <p>4・5 歳児については縦割りクラス制をとっており、常に一緒に過ごしています。延長保育の時間帯には時間に応じて、1・2 歳児の合同、幼児の合同などで一緒に遊んでいます。また、玄関横の下駄箱の前の空間や廊下のソファなども異年齢児と一緒に過ごす場所になっています。園は 6 階建マンションの一階に位置していますが、60 坪ほどの園庭が設置されており、子どもたちが自分で工夫して遊びを作り出せるようにと、固定遊具を置かず、山砂を敷き詰め中央には赤土で小山が作られています。園舎内は木を多く取り入れ温かみのある空間になっています。園舎の軒には頑丈な網が張られます。</p> <p>看護師は毎朝各クラスを回って、子ども一人一人の様子を観察し、前日からの送り事項のある子どもの状態を確認しています。「保健年間計画」で、2 ヶ月ごとの目標や留意点、観察項目、保健指導内容などを計画し、各期の反省・評価を行っています。保健指導は「鼻の日」や「目の愛護デー」に、子どもたちが鼻や目に興味を持つような話をしたり、「手洗いチェッカー」で洗っていない手の汚れを実感するなど年齢に合わせた内容で行っています。</p> <p>緊急連絡体制は職員や保護者に周知されており、災害時は「一斉メール配信システム」や「災害時伝言ダイヤル」を利用することになっています。職員は救急救命法の研修を受けており、園長・主任・看護師は消防署の上級救命講習を修了しています。消防署の協力を得て、火災通報装置を使った通報訓練を毎年行っています。</p>
<p>4.地域との交流・連携</p>	<p>町内会に加入して子どもたちは夏まつりや秋まつり・餅つきに参加し、行事の際にはテントや紅白幕などの物品を貸していただくなど交流を図っています。また、町内会の役員会に出席して、保育園としてできることを伝えています。マンション理事会の理事を受け、近隣の住民には行事の際に事前に挨拶して、保育園前の道路の清掃するなどして交流をしながら保育園への要望を把握できるように努めています。</p> <p>園のスポーツフェスティバル（運動会）は近隣の小学校の校庭を借りて実施し、町内会・近隣の保育園など招待しています。昨年からはボランティアグループ「手話の会」による遊びの会に聴覚に不自由な方を招待して、手話・絵本・ゲームなど一緒に楽しんでいます。年長児は小学校を訪問して 1 年生との交流し、近隣の中学校・高等学校からは福祉体験の受け入れをしています。地域へのサービス提供については、一時保育を実施中です。一時保育は毎月、10～15 人の利用があり、クラスに入って園児と一緒に過ごしています。毎年 200 名以上の見学者があり、その際に子どもの食事や排泄などについて相談され、必要に応じて関係機関の紹介をしています。</p> <p>4・5 歳児は図書館に出かけて絵本や紙芝居を借りています。戸塚区役所屋上の庭園に遊びに行き、戸塚区主催の歯磨き指導などのイベントに参加しています。近隣の系列保育園の子どもたちが遊びに来て園庭で一緒に遊び、公園で待ち合わせて遊ぶこともあります。散歩の際には行きかう方々と積極的に挨拶を交わしています。</p>

5. 運営上の透明性の確保と継続性

法人共通のパンフレットに加えて、園の保育内容について詳しく紹介した冊子を作り、パンフレットとして活用しています。法人ホームページからリンクして園の内容が写真入りで詳細に掲載されています。戸塚区や私立園長会のホームページにも簡潔に紹介されています。子育て情報誌に紹介され、地域コミュニティセンターと併設している保育園としてテレビの取材に応じたこともあります。

毎年、保育指針に基づく職員による自己評価を 100 項目に絞り実施しています。結果を集計したものを報告書として保護者に配付しています。昨年度の評価結果によって引き続き継続して伸ばしていく部分として「子どもたちとの信頼関係を築き子ども一人一人の人格を尊重しての保育」「一人一人の環境や能力や成長の差を把握して、保護者とともに見守る」「保護者や地域との連携」が挙げられています。改善点としては「職員全体での普通救命講習の受講」「アレルギーに関する知識を高める」「園の保育方針など、職員間で更に周知してわかりやすく説明していく」となっています。改善点についての具体的な取り組みが課題となっています。

園には保護者の自主的な組織による「保護者会」はありませんが、年 2 回開催される「運営委員会」が保護者との継続的な意見交換の機会になっています。運営委員会は乳児クラス、幼児クラスの保護者代表と外部委員、法人職員、園長・主任が出席しています。各クラスの様子や行事、今後の予定などを報告し、保護者より意見や要望を聴いています。今年度第 1 回運営委員会ではエプロン紛失があったことや子どもが全体で「いただきます」をしていないことへの疑問、網戸の修理の必要性、昨年度は感染症にかかる子どもが少なかったと感じるなど、詳細について率直な意見交換がされています。

6. 職員の資質向上の促進

法人作成の「コンプライアンスハンドブック」を全職員に配付して意識向上に活用しています。冊子には企業理念をはじめ、行動規範・内部通報制度・保育施設の運営管理等を掲載しています。法人内での事故例や区からの不適切事例が報じられた場合は、回覧で情報共有するとともに、内容によっては園長が職員に速やかに伝達しています。

保育内容については冊子「グローバルキッズ戸塚吉田町保育園の保育」を作成し、パンフレットとして職員をはじめ保護者、来園者などに配付しています。冊子は園の保育理念、目指す子ども像や展開している保育内容について A4 版 6 ページにわたって、丁寧に説明しています。職員全体ミーティングの際に冊子をもとに園長が丁寧に説明、確認しています。

主任のほかにも各クラスにリーダーを置き、毎月リーダーミーティング行って職員の育成を図っています。主任は毎朝、各クラスを回って子どもや職員の状況を把握しています。毎月の勤務表は職員の希望をもとに主任が作成し、各職員が心身共に健康な状態で業務に当たれるように配慮しています。また、リーダー育成研修に参加してスーパーバイザーとしての力を付けています。日本でトップクラスといわれているいくつかの保育園の見学に、職員の半数ほどが参加して園運営の参考にしています。また、遊びやアートについては夜間、外部講師による研修を実施して保育が豊かなものになるように努めています。